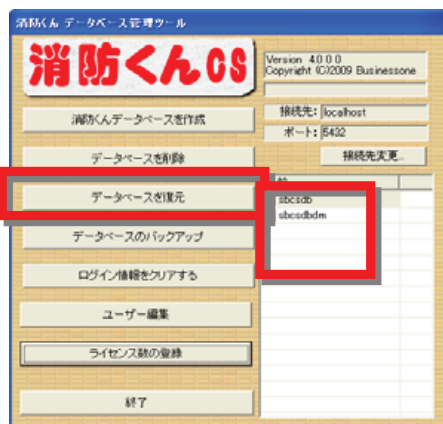


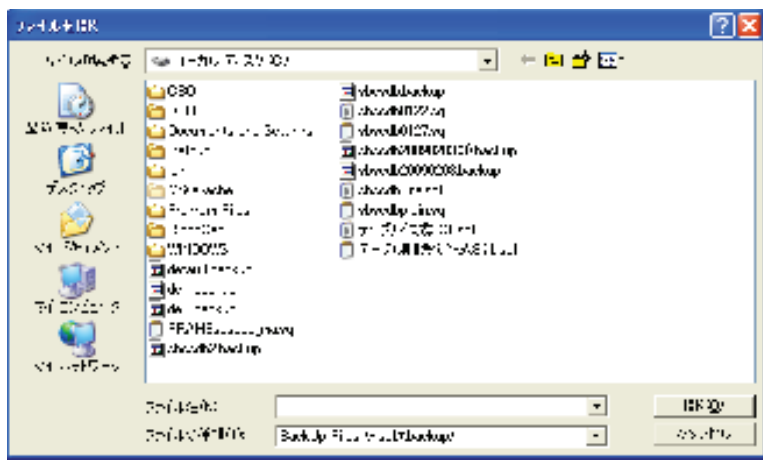
2.4 データベースの復元

ここではデータベースの復元の手順を説明します。

- ① 復元を行う対象のデータベースをリストより選択し、「データベースを復元」ボタンを押してください。

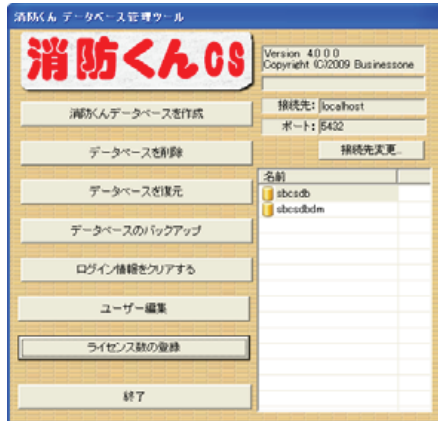


- ② ファイルダイアログが表示されます。バックアップファイルを選択し、「開く」ボタンを押して下さい復元作業が開始されます。



- ③ 復元作業実行中は終了以外のボタンが無効になります。

- ④ 復元作業はバックアップファイルのサイズによりますが、5～10 分程度かかります。



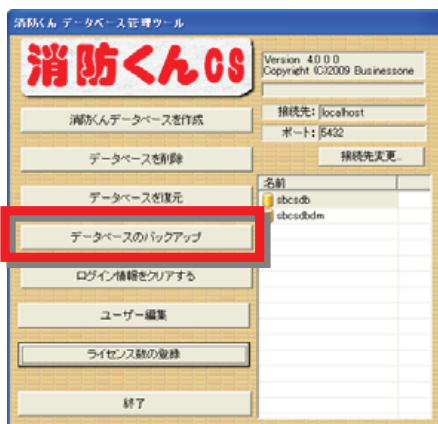
- ⑤ 以上でデータベースの復元は完了です。



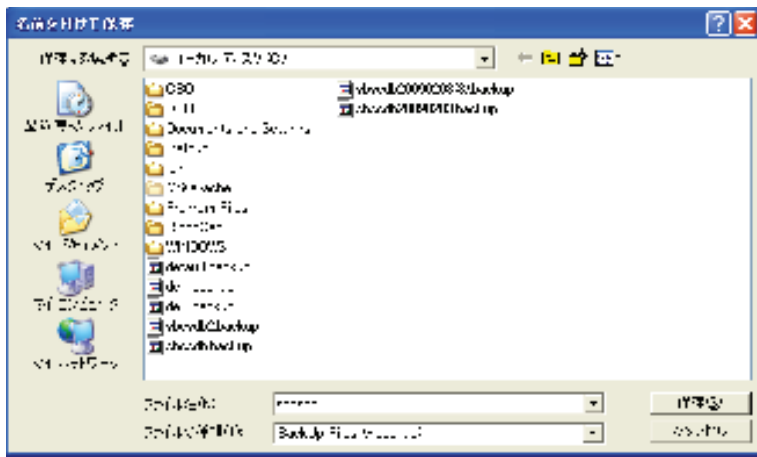
2.5 データベースのバックアップ

ここではデータベースのバックアップの手順を説明します。データベースのバックアップを作製して多くことで、バックアップ作製時点のデータベースが復元できます。

- ① バックアップを行うデータベースをリストの中から選択し「データベースのバックアップ」ボタンを押して下さい。



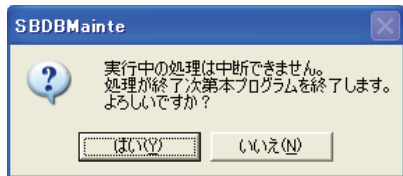
- ② ファイルダイアログが表示されます。バックアップファイルの保存場所を選択し、保存するファイル名を入力して、「保存」ボタンを押して下さい。



- ③ 以上でデータベースのバックアップは完了です。「OK」ボタンを押して下さい。



データベースの新規作成、復元の途中で終了ボタンを押すと、以下のダイアログが表示されます。



はいを押すと修理が終了次第、本体を終了します。

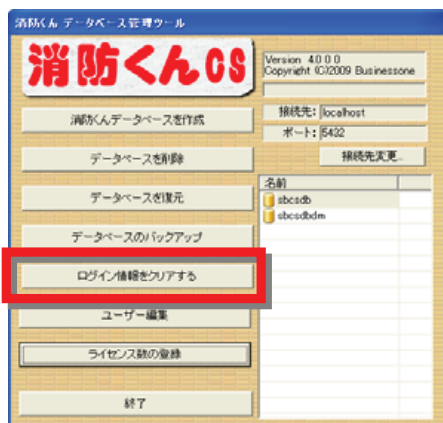
2.6 ログイン情報のクリア

消防くんデータベースにクライアント側（報告書作成・様式編集・労務計画）ソフトでログイン後に、正常終了していない場合、そのユーザーについては再ログインできません。

選択中のデータベースの全ユーザーのログイン情報を消去し、再度ログインできる状態に戻します。

（選択中のデータベースに対して、すべてのユーザーが操作や起動されていないことを確認してください。操作を続けて行くと、誤った場所にデータが書き込まれる恐れがあります。）

- ① ログイン情報をクリアするデータベースをリストの中から選択し「ログイン情報をクリアする」ボタンを押して下さい。



- ② 他の操作が必要でなければ、「データベース管理ツール」については終了します。

4 自動バックアップの設定方法

1 バックアップスクリプト「PsqlBackUp.bat」の確認

1.1 「データベースバックアップスクリプト」とは

消防くんで使用される PostgreSQL データベースをバックアップするコマンドを記述した、ファイルになります。このファイルを「Microsoft Windows タスクスケジューラ」へ設定することで定期的に決まった時間にバックアップを行う事が出来ます。(以下バッチファイルと記述)

1.2 「PsqlBackUp.bat」の確認

バッチファイル(PsqlBackUp.bat)について利用される環境に合わせて記述内容を変更します。(このバッチファイルは、データベース管理ツールのインストール先にあります。通常は「C ドライブ」内の「CBO フォルダ」の「SBDBMente フォルダ」となっております。)

① PostgreSQL インストールフォルダの設定

バッチファイルを Windows 機能のメモ帳などテキストエディタで開き(バッチファイルを右クリックし、「編集」を選択します。)、以下の記述内容を環境に合わせて変更します。(バッチファイル:12行目)、

```
SET PSQLEDIR="D:¥Program Files¥PostgreSQL¥8.3¥bin"  
※記述は D ドライブへ PostgreSQL をインストールした場合
```

② バックアップフォルダの設定

(予め、最もディスクの空き容量があるドライブにバックアップファイル用のフォルダを作成しておいてください)

実際にバックアップファイルが格納されるフォルダパスを指定します。(バッチファイル:15行目)

```
SET BACKUPDIR="D:¥CBO¥消防くんデータバックアップ"  
※記述は D ドライブの CBO フォルダの中に[消防くんデータバックアップ]フォルダを作成している場合
```

- ③ データベース名の設定
標準とは異なる名称でデータベース名を作成していた場合、そのデータベース名を指定します。

```
rem バックアップデータベース名  
SET BACKUPDBNAME="sbcsdb"
```

- ④ 削除期間の設定

バックアップファイルは設定によってディスク容量を圧迫する為、バックアップを行ったタイミングで古いファイルを削除する月を指定します。(バッチファイル:69 行目)

```
set /a delDate=%date:~0,4%%date:~5,2%% - 1  
※赤字で記述される数値を変更します。
```

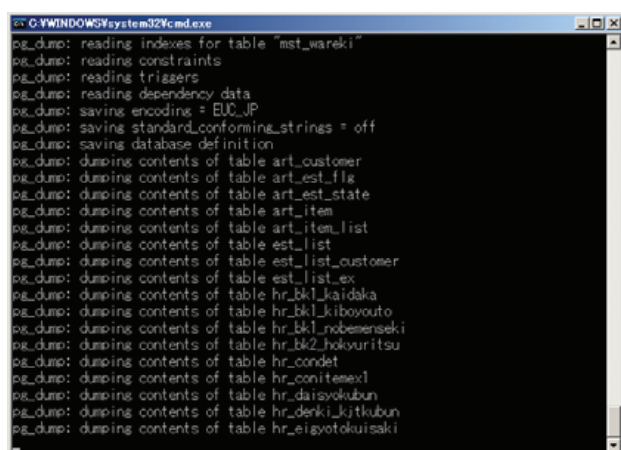
- 1 を指定した場合、現在日付が2009年3月1日の場合、2009年2月1日より古いデータが削除されます。(現在は月単位での指定に制限しております。)

1.3 バッチファイルの起動確認

サーバー構成の設定まで行った状態で1度正常に実行されるか起動します。

「PsqlBackUp.bat」ファイルをエクスプローラよりダブルクリックします。

実行されますと以下の画面が表示されます。



```
C:\WINDOWS\system32\cmd.exe  
pg_dump: reading indexes for table "mst_wareki"  
pg_dump: reading constraints  
pg_dump: reading triggers  
pg_dump: reading dependency data  
pg_dump: saving encoding = EUC_JP  
pg_dump: saving standard_conforming_strings = off  
pg_dump: saving database definition  
pg_dump: dumping contents of table art_customer  
pg_dump: dumping contents of table art_est_flg  
pg_dump: dumping contents of table art_est_state  
pg_dump: dumping contents of table art_item  
pg_dump: dumping contents of table art_item_list  
pg_dump: dumping contents of table est_list  
pg_dump: dumping contents of table est_list_customer  
pg_dump: dumping contents of table est_list_ex  
pg_dump: dumping contents of table hr_bk1_kaidaka  
pg_dump: dumping contents of table hr_bk1_kiboyouto  
pg_dump: dumping contents of table hr_bk1_nobemenseki  
pg_dump: dumping contents of table hr_bk2_hokuritsu  
pg_dump: dumping contents of table hr_condet  
pg_dump: dumping contents of table hr_conitesexl  
pg_dump: dumping contents of table hr_daisvokubun  
pg_dump: dumping contents of table hr_denki_kjtkubun  
pg_dump: dumping contents of table hr_eiyotokuisaki
```

正常に動作しますとバックアップが動作し、テーブルバックアップ結果が表示されます。

※動作していない場合、パスワード入力待ちとなる、画面が数秒で閉じる等、バックアップ処理が実行されませんので、必ず動作するか確認してください。

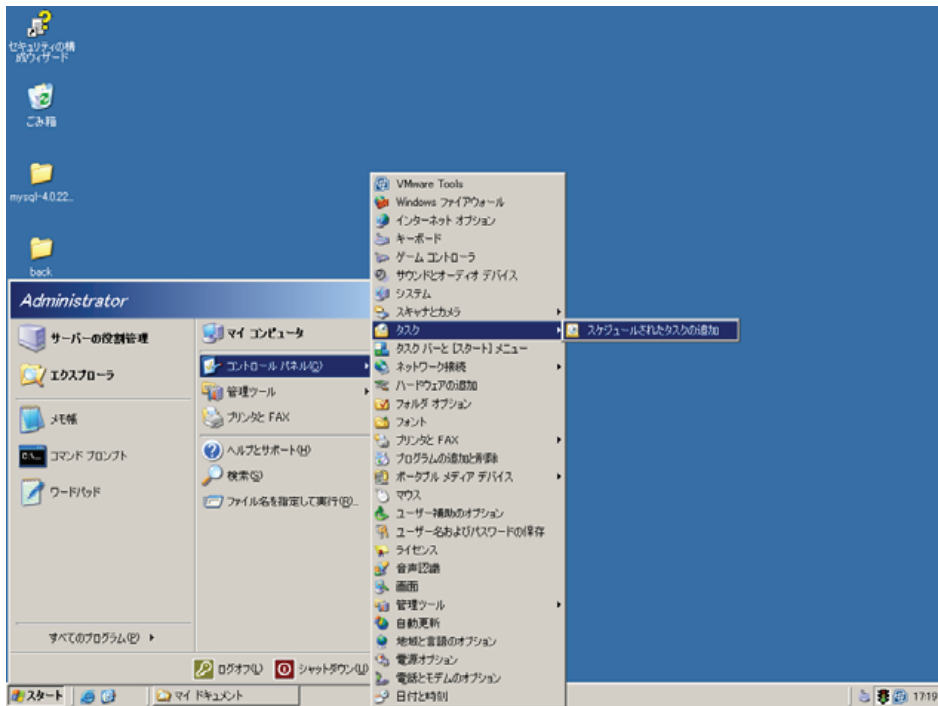
2 スケジュール登録

2.1 タスクスケジュールの追加

自動バックアップを行う Microsoft Windows タスクスケジュール（記載内容は Windows2003Server）の追加方法について説明します。

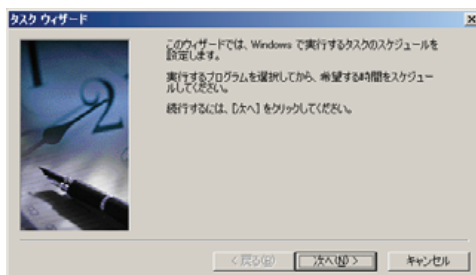
① タスクスケジューラの起動

「スタート」→「コントロールパネル」→「タスク」→「スケジュールされたタスクの追加」を実行します。



② タスクウィザード

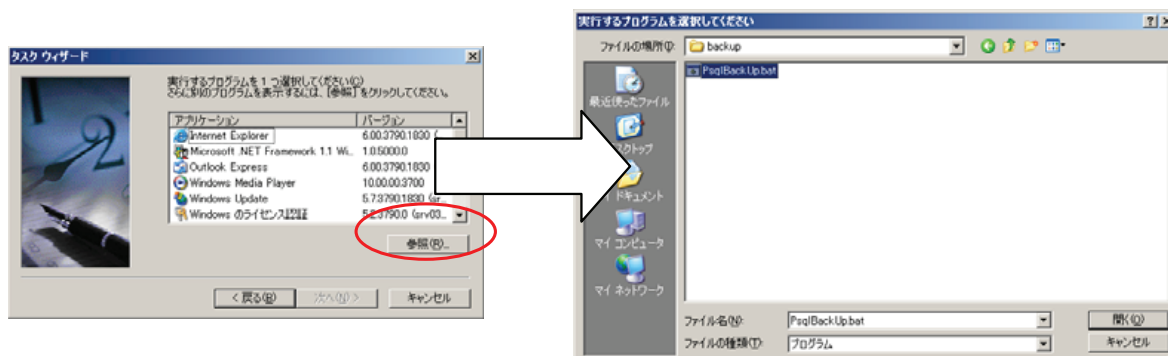
実行されますと以下の画面が表示されますので「次へ」ボタンを押下します。



③ 実行プログラムの指定

「参照」ボタンを押下し、ファイル参照ダイアログを表示します。

バックアップを行うスクリプト「PsqlBackUp.bat」を選択し、「開く」ボタンを押下します。



④ 実行名称、曜日の指定

実行するスケジュール名称、実行する曜日を選択し、「次へ」ボタンを押下します。



⑤ 実行時間、実行間隔の指定

自動バックアップを行う時間、実行する間隔を指定し、「次へ」ボタンを押下します。

実行時間についてはデータ量によりませんが、10分～20分程度の見込みです。

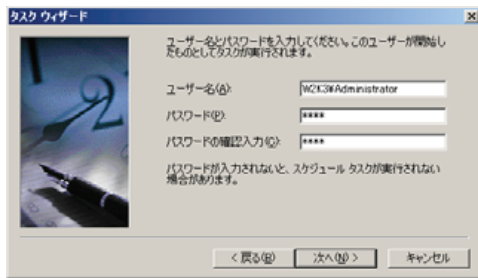
※バックアップ実行時間帯はシステムへアクセスされない、業務時間外を設定するようにお願い致します。



⑥ 実行ユーザーの指定

Server をログオフした状態でも自動バックアップが行われるように、ログインユーザー、パスワードを指定し、「次へ」ボタンを押下します。

※こちらは管理者のユーザー／パスワードを指定します。



⑦ 設定の完了

以上でスケジュールの設定が完了となります。

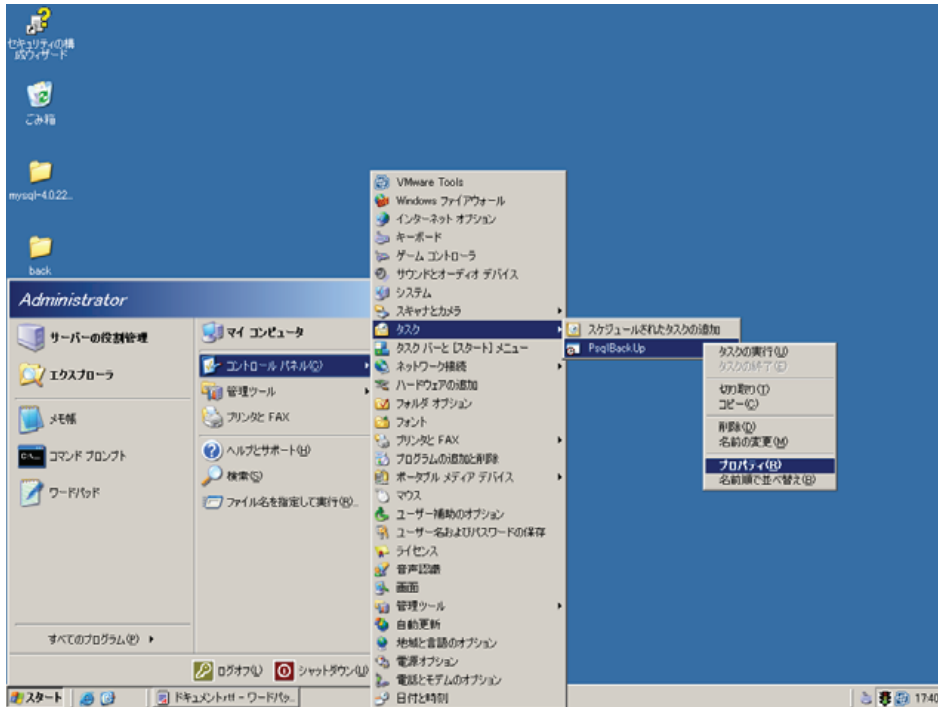
「完了」ボタンを押下してください。



2.2 スケジュールの再設定について

スケジュールを追加すると、④で設定された「**実行名称**」で次回より「**コントロールパネル**」→「**タスク**」欄へ表示されます。

表示される「**スケジュール実行名を右クリック**」→「**プロパティ**」を実行することで、スケジュール内容を変更することが可能です。



2.3 バックアップデータの復元

「消防くん データベース管理ツール」より、復元が可能です。